

地域に息づく文化のかたち 祭りを彩る 造形

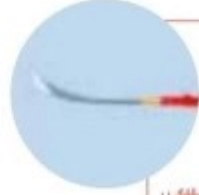
【学びの目標】

- 🍷 祭りを地域の美術文化ととらえ、地域の人々の力でつくられていることに関心をもつ。
- 💡 比較しながら、それぞれのよさや美しさに気づき、文化の違いや共通点から理解を深める。
- 🎨 形や色彩、素材、制作技法などに着目し、華やかさや迫力などのイメージをとらえる。



あなたの街や地域にはどのような祭りがありますか。古来、祭りとは神や祖先をまつことでした。祭りは、地域の人々の願いを、山車や衣装、お面などの造形物に表わして各地で古くから受け継がれてきています。

日常とは違った場でどんな造形物が使われているのか感じ取ってみましょう。



長刀鉾

鉾をはらう役目をする20mもの長い柱のてっぺんに大きな長刀を付けていることから長刀鉾という。

造形的な視点

なぜ、祭りに山車やお面などの造形を用いてきたのだろうか。

祇園祭【京都市】

平安時代から続く1100年以上の歴史がある祭り。山鉾と呼ばれる古今東西の名品を飾り付けた大きな山車が、京都の街を巡る。



破風裏
前方の軒裏には、江戸時代の絵師、松利繁文による2羽のタンチョウヅルが描かれている。



下水引・胴懸
伝説の霊獣「麒麟」が描かれている幕（下水引）。その下の幕（胴懸）は、16～18世紀につくられたベルシヤ絨毯。



見送り（後方部）
後ろの幕（見送り）には、伊藤若冲による名画「短日鳳凰図」の原画が用いられている。